



押さえておきたい対策ポイントと消毒薬の使い方

高病原性鳥インフルエンザに備えて

諸外国の発生状況及び渡り鳥の飛来シーズンの到来から、今年度も秋以降の高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 発生リスクは高いと考えられる。今号は、HPAI対策のポイントと消毒薬の使い方を紹介する。

HPAI対策のポイント

香川県の発生農場は雑木林に囲まれ、敷地中央には野鳥が飛来する「ため池」があり、発生鶏舎はため池に最も近い場所に位置していた。過去の発生事例の調査から、近隣に水辺(池、沼、川)が存在するとHPAI発生リスクが高まる事が示唆されている。

本事例でも、ウイルスに感染した野鳥が飛来し、環境中に存在したウイルスが野生動物や人・水・資材を介して鶏舎内に持ち込まれた可能性が疑われている。そのため、野生動物の接近・侵入を防ぎ、人・水・資材を介してウイルスを持ち込まないための対策、そして、可能であれば水辺の野鳥対策が重要である。

全農家畜衛生研究所 研究開発室

昨年度の国内HPAI発生状況

2017年度、家さんのHPAI発生は香川県の1事例(肉用鶏農場)、野鳥のHPAI検出は1都2県(島根、東京、兵庫)の46事例であり、全てH5N6であった。①香川県のウイルスは2016年12月以降に韓国で検出されたものと極めて近縁である事、②環境省の渡り鳥飛来状況調査では例年と大きな変化はない事、③国内で野鳥からウイルスが検出された地点が互いに離れている事から、同年11月初旬以降に、渡り鳥がウイルスを持ち込んだと考えられる。

今年度の海外HPAI発生状況

本年9月中旬時点の海外主要地域におけるHPAI発生状況は次の通り(OIE*報告より)。

韓国では本年3月に家さん農場で発生したHPAI以降、新たな発生はない。台湾では昨年度から継続して家さん農場で発生しており、ウイルスの常在化が疑われる。中国では朝鮮半島に近い遼寧省で、本年5月にHPAI(H7N9)が発生した。

欧州では本年4月以降、複数の国で家さんと野鳥からHPAI(主にH5N6)が検出され続けている。

消毒薬の適切な使い方

HPAIウイルスは消毒薬に対して比較的抵抗性が弱く、適切に使用する事で高い消毒効果が期待できる。消毒薬を置くべき場所(表1)と、各所に適した消毒薬(表2)を参考にしていきたい。

また、踏み込み消毒槽の使い方も今一度確認したい(図)。

表1. 消毒薬を置くべき場所と各所に適した消毒薬の一覧

	場所及び用途	消毒薬
農場内 家さん舎内	鶏舎内散布、器具、車両、消毒槽	逆性石けん
	鶏舎内散布、鶏舎前室、地面	消石灰
	鶏舎の出入り口	手指の消毒用アルコール
	鶏舎の出入り口、トイレ、休憩所等	薬用石けん
事務所	出入り口(噴霧機、マット)、器具、車両	逆性石けん
	事務所周辺、駐車場、地面	消石灰
	事務所の入り口	手指の消毒用アルコール
	事務所のトイレ等	薬用石けん

表2. 鳥インフルエンザウイルスに効果のある消毒薬の例

消毒薬	商品名	希釈倍率	金属腐食性
逆性石けん	ロンテクト、アストップ、クリアキル、パコマ	500~2000倍	ない
塩素剤	アンテックピルコンS	500~2000倍	少しある
	クレンテ	300~3000倍	
	スミクロール	100~1000倍	
ヨウ素剤	ポリアップ16	2000~5000倍	少しある
	ファインホール	200~800倍	
	バイオシッド30	500~1000倍	
アルデヒド	エクスカット25%・SFL、グルタプラス	200~1000倍	少しある
オルソ剤	オーチストーン、ゼクトン、タナベゾール	100~300倍	少しある
アルコール	消毒用エタノール	そのまま使用	ない
	生石灰	水を加え散布	(皮膚を傷める)
	消石灰	そのまま散布	(皮膚を傷める)

※国際獣疫事務局

図. 踏み込み消毒槽の使い方

